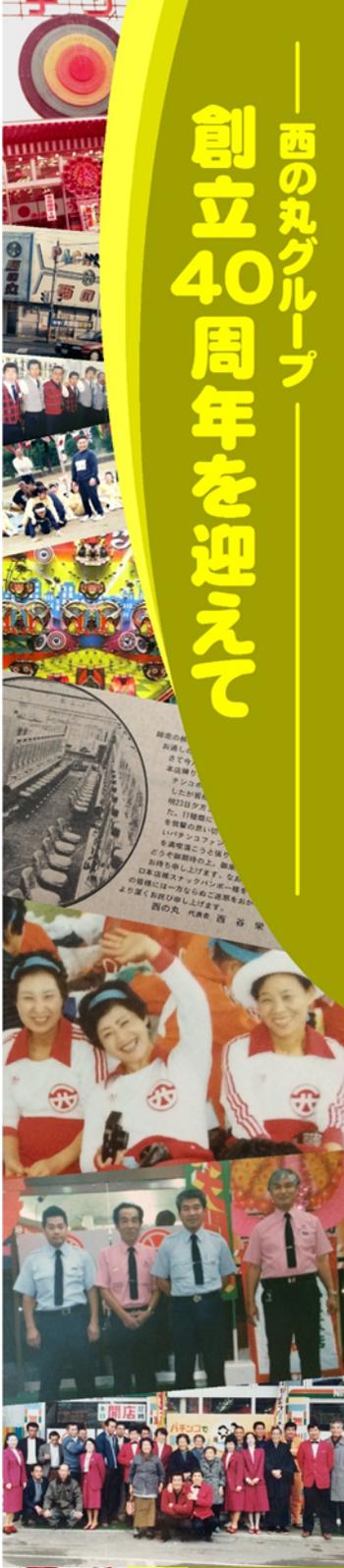


創立40周年を迎えて



創業七人衆の一人 本社 森下 課長

創業七人衆の一人として西の丸誕生と共に、会長の後を一緒に歩いてきました。会長の誕生日の12月23日17時（昭和51年）南延岡に1号店が開店しました。開店と同時にホールは満台状態でした。次の日の夕刊には、我が社の開店の記事が大きく報道されておりました。228台のホールに2倍以上のお客様が詰め掛け、近くにあったホール2店が、西の丸の開店で集まったお客様の流れで満台になったようです。

17時開店が23日から30日連続きました。社員は7人ですから、閉店して明日の開店準備を済ませて夜食をとるのは、午前3時頃で4時より早く休むことはありませんでした。元旦は正午開店、それからは、通常開店です。その当時は、社員一人ひとりが自分のすべき仕事を自分で見つけ一生懸命しておりました。思い出は沢山あります。その頃のお客様は、年配の方が多く、会長ファン（日の丸時代）のお客様が多く、ノッポの兄ちゃん（会長の愛称）に会いに、昭和51年ですから、今のように車で来るではありません、歩いてか、バスで、遠くは西階や、恵比須町から会長に会いきて下るお客様でいっぱいでした。

それは、西の丸にすれば、会長ファンのお友達がたくさんいて、ノッポの兄ちゃんと会えるからです。そんなホールでした。今は出来ないけれど、その当時は、そんなお客様と2階の食堂と一緒に会長専務（西谷産業の社長）の釣ってきた魚と一緒に食事をしたものです。開店して半年位は、開店と同時に満台で、町でお客様に会うと、いつも西の丸は満員で打つ台がないもんねと言われたものです。10時のクワイガワマーチと同時に、何処にいたのかと思うほど、直ぐに満台になりました。入れ替え開店ともなると、あの小さなお店が押し合いへし合いで靴や、スリッパがアチコチに残っています。

今では、嘘のような話ですが、本当に沢山のお客様に可愛がられて今の西の丸になりました。懐かしい思い出は沢山ありますが、これからも、お客様に可愛がられる西の丸でありますように願っております。私も高齢者になり、何時まで一緒に頑張れるかわかりませんが、健康の許す限り、一緒に歩いて行きますので、社長、上司の皆様、また若い社員の皆様、どうぞご指導とご協力を宜しくお願い致します。

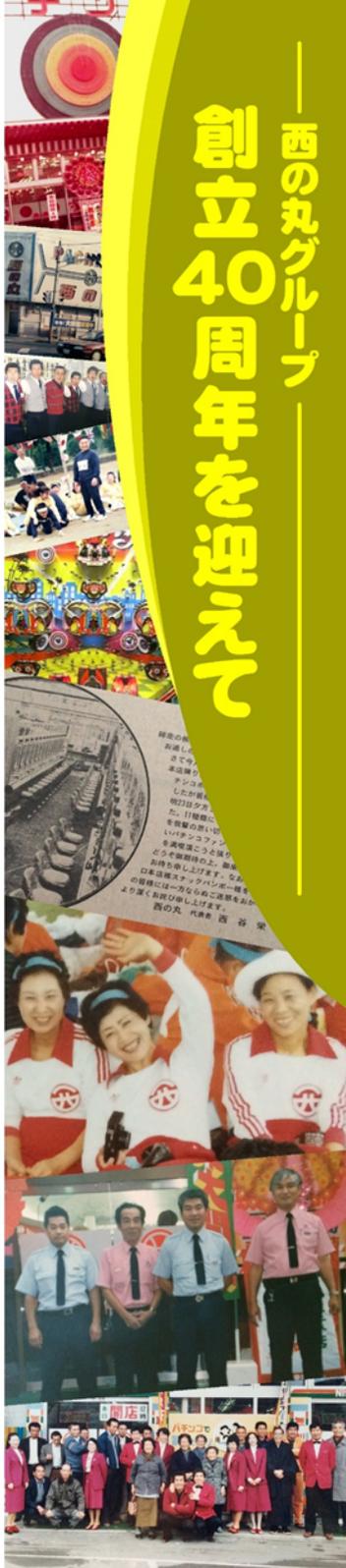


勤続30年

本社 多良 課長

お陰様で入社30年目を迎えることができました。これも会長はじめ皆様の暖かい励ましがあってのことだと深く感謝いたしております。右も左もわからずこの業界に飛び込みました。毎日毎日先輩の後ろについて廻り、先輩のすることとをただ見て仕事を覚える毎日でした。足は痛いし、耳鳴りはするわ、タバコの臭いで胸はムカムカするわ、お客様から毎日叱られるし、もうやめようかと毎日思っていました。お客様も多く、当時は一回交換がほとんどで、立ち止まる時間さえもない状況。ヘトヘトに疲れ、交替したら倒れこむように休んできました。しばらくすると、体も慣れ、仕事も少しずつ面白くなり、機械オンチの私でも機械に興味を持つようになり、休憩時間にいらなくなった機械を分解し、裏パックを洗浄し、また組み立てたりして機械トラブルもある程度スムーズに出来るようになった頃、船越店から門川店に異動。船越店に増して客数が多く、ほとんど毎日居残り残業が続いていた。門川店の前についてこの間まで本屋さんがあったが、そこで今まで本など読んでいた。門川店の前についてこの間まで3時間の休み時間に本を読むようになり、そこからいろんなことも勉強できた。入社し、2年半で主任にさせて頂いた。その後、係長、店長、課長と昇格させて頂いたが、西の丸に入って一番嬉しかったことは、店長、課長になった時ではなく、門川店で主任になった時でした。生活は楽ではなかったのですが、ただひたすらに頑張った。そのことを社長（現会長）が認めてくださったということです。家内も大変喜び、主任昇格の辞令を金色の額縁を買って来て飾ってくれました。仕事がうまくいかない時や辛い時は、その額縁を見るとその時の姿を思い出し、「頑張らなくちゃ」と、また思い直すきっかけにもなっています。今67歳になり、残りの時間をいかに使うかを考えると楽しくてたまらない。

創立40周年、おめでとございます。



勤続25年

延岡店 黒木 チーフ

皆様のお陰で入社27年を迎えることができました。これも一重に会長をはじめ皆様の暖かい励ましがあったことだと心から感謝しております。

私は延岡店が発売店で採用されたその夜から働き始め、まず掃除の仕方から教えてもらいました。この業界に入ってからどのようにお客様に接していいかわかりませんでした。ただホールを駆け回ってばかりでした。当時、一番人気のあった台は、一発機といってアツッカーが30秒ほど開きっぱなしで、大量の玉がいつきに出、ホール中が玉箱であふれんばかりで延岡店の狭い通路は足場のないほどでした。玉の交換や、機械のトラブル対応など失敗の連続でした。それから隣が酒屋さんなので、お酒を飲んで入ってきたり、飲みながらパチンコしているおじさんもいました。そんなお客様に先輩たちは気長に話をするがなかなか聞いてくれません。先輩たちのすること、話すことを一生懸命に見て聞いてやってみて、それこそ無我夢中で仕事を覚えていきました。辛かったことは、ホールを駆け回るので、足が痛くて、休み時間はグツグツ。当時は会長の奥様や西谷産業の社長と一緒に仕事をさせていただき、いろんなことを教えていただくことができました。私の基礎は延岡店にあります。頑張ったことが認められ主任になり、船越店、日向店、センター店を経験し、現在の門川店に至っております。

いつの間にか62才となり、今は孫達と一緒にいる時が一番の幸福感を感じます。本当にありがとうございます。